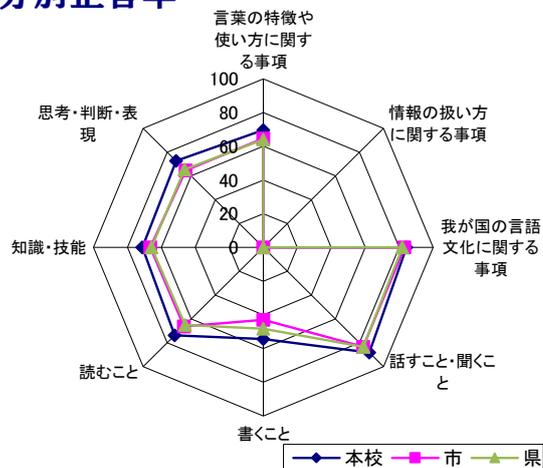


宇都宮市立錦小学校 第5学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	69.7	64.7	64.1
	情報の扱い方に関する事項	0.0	0.0	0.0
	我が国の言語文化に関する事項	84.3	83.1	81.9
	話すこと・聞くこと	88.2	83.3	83.4
	書くこと	54.4	42.8	48.2
	読むこと	73.8	66.1	65.1
観点	知識・技能	71.2	66.5	65.9
	思考・判断・表現	72.6	64.6	65.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は県、市を上回っている。 ○漢字の読みについては8割以上の正答率である。 ○文を読み、気持ちを表す言葉として適した言葉を選ぶ問題も正答率94%とよくできていた。 ●修飾語の問題では、正答率が9.8%で極端に低かった。 ●熟語の漢字の組み合わせの種類が同じものを選ぶ問題では、正答率が県と市を大きく下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ●修飾語や熟語については3・4年生の学習内容であり、習熟が不十分であったか、忘れてしまっていた可能性がある。言葉の特徴や使いに関する事項においては、前の学年に戻って復習する時間を設ける必要がある。
我が国の言語文化に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は県、市を上回っている。 ○ことわざ「ちりも積もれば山となる」の意味や使い方を理解し、正しい答えを選択した児童の割合は84%で、県と市を上回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ●引き続き、日常でよく使われることわざや慣用句について辞書で調べる活動を通して、使い方や意味を理解し正しく使えるように指導していく。
話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は県、市を上回っている。 ○話題の中心を捉えることができるかどうかをみる問題では、正答率100%であった。 ○参加者の発言内容を基に、司会者の発言に適した内容を記述する問題では、正答率が88.2%であり、県と市を10ポイント以上上回った。 ●話し手の工夫の共通点を説明した文として適したものを 選ぶ問題は、正答率が県と市をやや下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ●国語の学習に限らず、話し合い活動をする際には相手の話を注意深く聞いたり、相手に伝わりやすい話し方を意識して話したりするよう指導する。
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は県と市を上回っているが、数値としては高くはない。 ○条件に従って、7～9行の間で文章を書くことができた児童は64%であった。 ○アンケート結果から読み取ったことを基に、2段落目に自分の考えを書くことができた児童は43.1%であるが、県と市を上回っている。 ●段落を下げるのを忘れてしまったり、それぞれの段落に書く内容を混同してしまったりした児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●基本的な作文用紙の使い方を再度指導し、段落や句読点を正しく書けるようにする。 ●作文の条件を満たしながら自分の考えを書くことができるよう繰り返し練習する機会を設け、書くことへの苦手意識を和らげるようにする。
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は県と市を上回っている。 ○登場人物の気持ちや話の内容に適したものを選ぶ問題では、正答率が70%を上回り、よくできている。 ○文章を読んで理解したことについて、感想や考えをもつことができるかどうかをみる問題において、正答率が84.3%と県と市を大きく上回っている。 ●空欄に適する言葉を書き抜く問題の正答率は、県と市を下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ●長文読解の問題では、どんな場面が書かれているのか正確に読み取れるように、普段からいつ、どこで、だれが、どんなことをしたのか押さえながら読むように指導する。 ●書き抜きの問題に慣れていないことも原因だと考えられるので、本文からそのまま正しく「書き抜き」ができるよう、練習を重ねて指導する。